

Ⅲ 基礎科目（共通科目）の履修方法

共通科目は、総合科目、体育、外国語（英語、初修外国語、日本語）、情報、国語及び芸術の科目からなっており、科目ごとの開設の目的は以下のとおりです。それぞれの履修方法については、次ページ以降に記載します。

開設の目的

総合科目	初年次生が、大学という新しい学修環境に適応し、自律的にキャリア形成を始めることを支援する科目です。さらに、学問のあり方や自身との関わりについて、幅広く多様な視点から考えることにより、専門分野へ進むための確かな知的基盤を整えます。
体育	スポーツ科学を基にした多様なスポーツ実践を通して、生涯に向けたスポーツ技術の習得、健康・体力を維持増進するための知識と実践力、社会人としてのフェアな考え方、他者理解とコミュニケーションについて学ぶことにより、『健やかな身体、豊かな心、たくましい精神』を養う科目です。
外国語	学術研究の場で外国語が駆使できるようになることを目指して、学術的教養とそれに相応しい言語運用能力を養います。また、複数の言語を学ぶことで言語センスを磨き、あわせて文化、社会、価値観の多様性を知り、複眼的な視点からの思考力を身につけます。 なお、外国人留学生及び帰国生徒等（外国において相当の期間、中等教育を受けた学生）に対し、大学の講義・演習に必要な力を実践的に学ぶための日本語の科目を開設しています。
情報	情報とコンピュータに関する基本概念および社会における位置づけを理解し、インターネット社会におけるルールとモラルを身につけます。 またデータの収集・管理・分析に関する基本概念を理解し、データに基づいて客観的に判断する能力を養います。
国語	国際化した知識基盤社会を生き抜くためには、日本語について正しい知識を修得し、多様な情報を基に自己の意思を適確に表現し伝達する能力が求められます。このような日本語運用能力を向上させ、責任ある行動のとれる人材を育成することを目指します。
芸術	芸術に関する幅広い知識を学び、美的感性をみがき、表現する喜びを体験する科目です。総合大学の学生にふさわしい豊かでバランス感覚のある人間性を育みます。

1. 総合科目

(1) 総合科目の概要

総合科目は、以下の科目を開設しています。

- ① フレッシュマン・セミナー
大学初年次においてスムーズに大学における学修と生活に適応し、学修目標・動機を獲得して自律的な自己を確立するための科目。
- ② 学問への誘い^{いざない}
大学における学問分野の成り立ちや広がり、他の学問との関係性について具体的な問題から解き明かす科目。自ら専攻しようとする専門分野の意義や、それら専門分野の学群・学類での位置付けについても理解を進める。
- ③ 学士基盤科目
大学での自身の学びを、俯瞰的に捉えて動機づけられるように、広く社会や世界の視座からの多様な考え方・生き方に触れる科目群。この科目を履修することで、自らの学問的基盤を整える。この科目群には、学問に対する考え方の深化や、キャリア支援的な内容、分野横断的な内容、自己分析や自己の確立を促す内容、社会生活への適応性を涵養する内容を含む。初年次向けの科目と高年次向けの科目がある。

(2) 総合科目の修得すべき単位数及びその標準履修年次

総合科目は、フレッシュマン・セミナーを1単位、学問への誘い（いざない）を1単位、学士基盤科目から1単位以上、あわせて3単位以上を必ず修得しなければなりません。

フレッシュマン・セミナーと学問への誘いは、入学した年次において履修することを標準としますが、学士基盤科目については、卒業までの間に1単位以上、その年次に相応しい科目を履修してください。

<u>フレッシュマン・セミナー</u> 1 単位必修	<u>学問への誘い</u> 1 単位必修	<u>学士基盤科目</u> 1 単位以上必修 ※
-------------------------------	-------------------------	-----------------------------

※ 卒業要件の選択又は自由科目として、一定の単位数を履修できる学群・学類があります。卒業要件として履修できるか否かについては、必ず各学群・学類の履修細則を確認してください。

(3) 開設曜日時限

フレッシュマン・セミナーは、学群・学類毎の時間割（「開設授業科目一覧」の固定時間割を参照）のとおりに、「学問への誘い」は春Aモジュール水曜日5, 6時限に開設されています。学士基盤科目は固定時間割ではありません。それぞれの学群・学類で行われるガイダンス等に従って選択し、履修してください。

(4) 履修上の注意事項

- ① 学士基盤科目における受講者調整について
大型授業科目を解消し、教育の充実を図るため、それぞれの科目について受講者数の上限が定められています。履修申請には「事前登録」が必要です。履修申請者数が受入上限数を超過した場合には、受講者の調整が行われます。受講調整結果については、授業開始前に必ずTWINSで確認してください。
受講調整の詳細については、『開設授業科目一覧』（別刷）を参照してください。
- ② 総合科目の教室変更について
大人数を収容できる教室の数が限られているため、受講者数に応じて教室を変更する場合があります。教室変更については、掲示により周知しますので、必ずWeb掲示板等を確認してください。

2. 体育

(1) 開設科目区分

体育は、以下のとおり必修科目及び自由科目に区分して開設しています。

区分	卒業要件	開設形態	内 容
必修科目	必修	通年実技	各年次生を対象に通年で1単位ずつ履修する科目
		学期完結実技	3年次生を対象に春あるいは秋学期A Bモジュールと集中実技で学期完結型の1単位の科目
		集中実技	秋学期入学1年次生、3年次生を対象に学内又は学外で一定期間に集中して行う0.5～1単位の科目
自由科目	選択又は自由	通年実技	年間の時間割により、1年間を通して開設される1単位の科目
		集中実技	全学学生を対象に学内又は学外で一定期間に集中して行う0.5～1単位の科目
		講義	開設時限を定めて開設する学期完結又は通年で行う講義による科目
		演習	開設時限を定めて開設する学期完結又は通年で行う演習による科目

(備考) 自由科目……全学年の学生を対象に、さまざまなタイプの開設科目の中から自由に選択して履修する科目

(2) 修得単位数及び履修年次

「体育」は、必修科目として2～3単位修得しなければなりません。なお、1～2年次の2単位については、当該学年の通年実技を履修します。各学群・学類における修得すべき単位数及び履修年次は、次のとおりです。

学 群 ・ 学 類		必 修		選択又は自由
		単位数	履修年次	
人文・文化学群	人 文 学 類	2	1～2	○
	比 較 文 化 学 類	2	1～2	○
	日 本 語 ・ 日 本 文 化 学 類	3	1～3	○
社会・国際学群	社 会 学 類	2	1～2	○
	国 際 総 合 学 類	2	1～2	○
人間学群	教 育 学 類	2	1～2	○
	心 理 学 類	2	1～2	○
	障 害 科 学 類	2	1～2	○
生命環境学群	生 物 学 類	2	1～2	○
	生 物 資 源 学 類	3	1～3	○
	地 球 学 類	2	1～2	○
理工学群	数 学 類	2	1～2	○
	物 理 学 類	2	1～2	○
	化 学 類	2	1～2	○
	応 用 理 工 学 類	3	1～3	○
	工 学 シ ス テ ム 学 類	3	1～3	○
	社 会 工 学 類	3	1～3	○
	総合理工学位プログラム	3	1～3	○
情報学群	情 報 科 学 類	2	1～2	○
	情 報 メ デ ィ ア 創 成 学 類	2	1～2	○
	知 識 情 報 ・ 図 書 館 学 類	2	1～2	○
医学群	医 学 類	2	1～2	—
	看 護 学 類	2	1～2	—
	医 療 科 学 類	2	1～2	—
体 育 専 門 学 群		—		—
芸 術 専 門 学 群		2	1～2	○
地球規模課題学位プログラム		2	1～2	—

(備考) 1 体育の必修科目が、3単位以上の学類にあっては、3年次以降に通年実技、学期完結実技、集中実技のいずれかを履修すること。

- 2 必修科目以外に学生の希望によって、自由科目の体育を履修することができます。
(○は卒業要件の選択科目又は自由科目としても履修できることを示す。)
- 3 体育専門学群にあっては、専門科目又は専門基礎科目の履修により修得した単位をもって「体育」の履修に充てます。

(3) 履修方法及び注意事項

- ① 体育はそれぞれの履修年次に原則として、通年で1単位ずつ修得しなければなりません。ただし、当該年度に修得できなかった場合は、次年度以降において、合わせて履修(2単位以上)することになります。この場合は、当該年次対象に開設する必修科目から履修しなければなりません。
- ② 3年次生で必修単位を集中実技で修得する場合は、1単位の科目1科目、あるいは、0.5単位の科目を2科目履修すること。
- ③ 自由科目の体育を、必修科目の体育に替えることはできません。
- ④ 科目の選択は本人の希望を優先しますが、定員の関係で希望どおりの選択ができるとは限りません。科目の選択にあたっては、『開設授業科目一覧』及び体育センターHP掲載の共通体育シラバスを参照してください。
- ⑤ オリエンテーション、科目選択、履修申請
体育の履修にあたっては、以下の開設形態ごとに体育センターが行うオリエンテーションで概要を説明します。科目の選択及び決定は科目選択システムを用いて実施します。

開設形態		オリエンテーションの実施		履修申請の期間等
必修科目	通年実技	基礎体育	各学群・学類実施のオリエンテーションにおいて「共通体育ガイダンス」として実施する。	全学の履修申請期間に準ずる
		応用体育 および 発展体育	実施しない (科目選択については別途指示します)	
	集中実技	授業実施時期の2～4週間前		オリエンテーション終了後 (別途指示します)
自由科目	通年実技	春学期授業開始第1週の授業の時限		
	集中実技	授業実施時期の2～4週間前		
	講義・演習	開設学期の授業開始第1週の授業の時限		

(注) 科目選択システム未登録者は、体育センターに申し出て、定員に余裕のある科目の中から選択し、履修申請を行うこと。受付日時については、掲示等で連絡します。

⑥ 秋学期入学者の履修

秋学期入学者は、1年次の秋学期に必修科目の通年実技(0.5単位)を履修し、加えて秋学期入学者対象必修科目の集中実技を履修して、合わせて1単位を修得しなければなりません。入学翌年度の春学期以降の履修は、他の学生と同様です。

⑦ トリム運動の履修

トリム運動は疾病や傷害など、心身の条件によって実技に制限・配慮を必要とする学生が主な対象となります。

⑧ その他

科目によっては、参加費、教材費等を徴収することがあります。

3. 外国語

(1) 外国語の分類

外国語は、必修科目として「英語」、「初修外国語」、外国人留学生等のための「日本語」に区分されています。また、それ以外に各外国語において選択科目又は自由科目に対応する科目を開設しています。

区 分	履修上の区分	履修方法	履修年次	修得単位数	備 考
英語	基礎科目 (共通科目)	必修	1年次	4.0単位	
初修外国語	基礎科目 (共通科目)	必修	1～2年次	各学群・学類で 定める	英語及び日本語以外の外国 語
日本語	基礎科目 (共通科目)	必修	1～2年次	各学群・学類で 定める	外国人留学生等
その他	基礎科目 (共通科目)	選択・自由	1～4年次 ※	各学群・学類で 定める	英語・初修外国語及び 日本語

(注) ドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語、朝鮮語の選択・自由科目については履修年次が1～4年次です。詳細については(7)に示します。また、外国人留学生等のための日本語についての履修方法等の詳細については(8)に示します。

(2) 外国語の開設

外国語は、英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語、朝鮮語、日本語を開設しており、英語及び日本語以外の外国語は、初修外国語として開設しています。

(3) 外国語の授業実施回数及び開設時期

外国語科目はすべて1.0単位科目です。

単位数	授業回数	開設モジュール
1.0単位	15回 + 試験	ABCモジュール

詳細な授業実施期間は、グローバルコミュニケーション教育センターホームページに掲載される「外国語」学年暦で各自確認してください。

グローバルコミュニケーション教育センターホームページ：

<http://www.cegloc.tsukuba.ac.jp/> >> 外国語教育部門

(4) 履修の要件

「英語」及び「初修外国語」として履修すべき外国語及び単位数は、学群・学類ごとに次のように定められています。

学 群 ・ 学 類		英語 必修	初修外国語 必修
人文・文化学群	人 文 学 類	4.0※	4.0
	比 較 文 化 学 類	4.0	4.0
	日 本 語 ・ 日 本 文 化 学 類	4.0	4.0
社会・国際学群	社 会 学 類	4.0※	4.0
	国 際 総 合 学 類	4.0※	4.0
人 間 学 群	教 育 学 類	4.0	3.0
	心 理 学 類	4.0	3.0
	障 害 科 学 類	4.0	3.0
生 命 環 境 学 群	生 物 学 類	4.0	—
	生 物 資 源 学 類	4.0	—
	地 球 学 類	4.0	—
理 工 学 群	数 学 類	4.0	—
	物 理 学 類	4.0	—
	化 学 類	4.0	—
	応 用 理 工 学 類	4.0	—
	工 学 シ ス テ ム 学 類	4.0	—
	社 会 工 学 類	4.0	—
	総合理工学位プログラム	4.0*	—
情 報 学 群	情 報 科 学 類	4.0	—
	情 報 メ デ ィ ア 創 成 学 類	4.0	—
	知 識 情 報 ・ 図 書 館 学 類	4.0	—
医 学 群	医 学 類	4.0	—
	看 護 学 類	4.0	—
	医 療 科 学 類	4.0	—
体育専門学群		4.0	—
芸術専門学群		4.0	—
地球規模課題学位プログラム		4.0	—

(備考) 1 ※は「第1外国語」として特定の言語を指定していない学類を示す。

2 選択・自由科目の指定については各学群学類の定めによる。

3 *は原則として日本語を示す。

(5) 「英語」の履修について

学術研究の出発点に立った大学生に求められる学術的教養及び学術的言語技能の涵養を目的としています。

① 履修すべき年次と科目は以下のとおりです。

- ・「English Reading Skills I」(1年次履修・学期完結型科目, 1.0単位, 略称 E1-I)
- ・「English Reading Skills II」(1年次履修・学期完結型科目, 1.0単位, 略称 E1-II)
- ・「English Presentation Skills I」(1年次履修・学期完結型科目, 1.0単位, 略称 E2-I)
- ・「English Presentation Skills II」(1年次履修・学期完結型科目, 1.0単位, 略称 E2-II)

② 「英語」の履修上の注意事項

ア) 1年次必修科目のクラス編成

1 年次必修の 4 科目については、入学時に実施するプレイスメントテストにより受講クラスが指定されます。指定クラス以外の履修は認めません。クラス編成の詳細については、年度始めに各支援室等に掲示します。

イ) 秋学期入学者について

秋学期入学者については、春学期分の履修に関して、春季休業中に開設される集中授業で充てることになります。実施日程について、掲示で確認し必ず受講してください。

ウ) 「英語」の再履修について

「English Reading Skills I」・「English Reading Skills II」, 「English Presentation Skills I」・「English Presentation Skills II」の再履修を行う場合は、春 ABC 及び秋 ABC 開設の再履修者クラス、もしくは夏季・春季休業中に実施される再履修者対象の集中授業を受講するものとし、1 年次生クラスで受講することはできません。集中授業の詳細については掲示で通知します。

(6) 初修外国語（英語及び日本語以外の外国語）の履修について

未知の外国語に挑むことで知的訓練を積み、文化的・社会的な多様性に対する認識を深め、複眼的な視点からの思考力を身につけるとともに、当該の外国語の総合的な運用能力を養うことを目的としています。

① 必修科目には以下の科目があります。

ア) 基礎的な科目

- ・「基礎ドイツ語 AI」（1 年次履修・学期完結型科目、1.0 単位）
- ・「基礎ドイツ語 AII」（1 年次履修・学期完結型科目、1.0 単位）
- ・「基礎ドイツ語 BI」（1 年次履修・学期完結型科目、1.0 単位）

- ・「基礎フランス語 AI」（1 年次履修・学期完結型科目、1.0 単位）
- ・「基礎フランス語 AII」（1 年次履修・学期完結型科目、1.0 単位）
- ・「基礎フランス語 BI」（1 年次履修・学期完結型科目、1.0 単位）

- ・「基礎スペイン語 AI」（1 年次履修・学期完結型科目、1.0 単位）
- ・「基礎スペイン語 AII」（1 年次履修・学期完結型科目、1.0 単位）
- ・「基礎スペイン語 BI」（1 年次履修・学期完結型科目、1.0 単位）

- ・「基礎ロシア語 AI」（1 年次履修・学期完結型科目、1.0 単位）
- ・「基礎ロシア語 AII」（1 年次履修・学期完結型科目、1.0 単位）
- ・「基礎ロシア語 BI」（1 年次履修・学期完結型科目、1.0 単位）

- ・「基礎中国語 AI」（1 年次履修・学期完結型科目、1.0 単位）
- ・「基礎中国語 AII」（1 年次履修・学期完結型科目、1.0 単位）
- ・「基礎中国語 BI」（1 年次履修・学期完結型科目、1.0 単位）

- ・「基礎朝鮮語 AI」（1 年次履修・学期完結型科目、1.0 単位）
- ・「基礎朝鮮語 AII」（1 年次履修・学期完結型科目、1.0 単位）
- ・「基礎朝鮮語 BI」（1 年次履修・学期完結型科目、1.0 単位）

イ) 応用的な科目（2 年次履修・学期完結型科目、1.0 単位）

- ・「ドイツ語圏の言語と文化 A」
- ・「フランス語圏の言語と文化 A」
- ・「スペイン語圏の言語と文化 A」
- ・「ロシア語圏の言語と文化 A」
- ・「中国語圏の言語と文化 A」
- ・「朝鮮語圏の言語と文化 A」

各学類・専門学群において、第1外国語又は第2外国語として初修外国語を選択した場合の履修すべき科目及び単位数は次のとおりです。

学 群 ・ 学 類		1 年次	2 年次
		「基礎〇〇語」 A I, A II, B I	「〇〇語圏の言語と文化」 A
人文・文化学群	人 文 学 類	3.0	1.0
	比 較 文 化 学 類	3.0	1.0
	日 本 語 ・ 日 本 文 化 学 類	3.0	1.0
社会・国際学群	社 会 学 類	3.0	1.0
	国 際 総 合 学 類	3.0	1.0
人 間 学 群	教 育 学 類	3.0	—
	心 理 学 類	3.0	—
	障 害 科 学 類	3.0	—
生 命 環 境 学 群	生 物 学 類	—	—
	生 物 資 源 学 類	—	—
	地 球 学 類	—	—
理 工 学 群	数 学 類	—	—
	物 理 学 類	—	—
	化 学 類	—	—
	応 用 理 工 学 類	—	—
	工 学 シ ス テ ム 学 類	—	—
	社 会 工 学 類	—	—
	総合理工学位プログラム	—	—
情 報 学 群	情 報 科 学 類	—	—
	情 報 メ デ ィ ア 創 成 学 類	—	—
	知 識 情 報 ・ 図 書 館 学 類	—	—
医 学 群	医 学 類	—	—
	看 護 学 類	—	—
	医 療 科 学 類	—	—
体育専門学群		—	—
芸術専門学群		—	—
地球規模課題学位プログラム		—	—

(備考) 1 人文学類，社会学類，国際総合学類における上表の数字は，第1外国語又は第2外国語として履修すべき科目及び単位数を示す。

2 比較文化学類，日本語・日本文化学類，教育学類，心理学類，障害科学類における上表の数字は，第2外国語として履修すべき科目及び単位数を示す。

② 初修外国語（英語及び日本語以外の外国語）の履修上の注意事項

ア) 必修科目のうちの基礎的な科目の履修について

固定時間割で開講されます。原則として，自分が所属する学類・専門学群が対象となっているクラスを受講

してください。所属する学類・専門学群向けのクラスが開設されていない場合は、全学群対象のクラス、または他学類・他学群のクラスを受講してください。但し人数によっては受講生の調整を行うことがあります。

初修外国語の基礎的な科目は、春学期に開講される「基礎〇〇語 A I」,「基礎〇〇語 B I」と秋学期から開始する「基礎〇〇語 A II」の3つの科目に分かれています。これらの科目は、同一言語の科目を履修するものとします。例えば、「基礎ドイツ語」A I, A II と「基礎ドイツ語」B I の3科目を履修することはできますが、「基礎ドイツ語」A I, A II と「基礎フランス語」B I の3科目の履修をもって、計3.0単位必修の卒業要件を満たすことはできません。なお、特定のクラスで受講者が著しく多い場合は抽選などで人数制限を行い、履修する外国語の種類を変更してもらう場合もあります。

イ) 必修科目のうちの応用的な科目の履修について

基礎的な科目で選択したものと同一言語に関する科目を履修しなければなりません。

例えば、基礎的な科目では「基礎ドイツ語」を、応用的な科目では「フランス語圏の言語と文化」を選択するといったことは、原則として認められません。また、同一学期においては「〇〇語圏の言語と文化」の中から2科目以上を履修申請することはできません。

但し、第1・2外国語が英語でない場合は、履修申請を認めます。

ウ) 秋学期入学者について

必修科目の基礎的な科目「基礎〇〇語 A I」及び「基礎〇〇語 B I」は、春学期（春 ABC）の開講です。これに対し「基礎〇〇語 A II」は、秋学期（秋 ABC）に開講します。

初修外国語の履修希望者は、入学翌年度の春学期から履修をしてください。

注) ドイツ語は、秋学期（秋 ABC）に開設される「Basic German（基礎ドイツ語）」A I, B I, A IIを履修することも出来ます。

エ) 初修外国語（英語及び日本語以外の外国語）の再履修について

受講を希望するクラスの担当教員に相談し、許可を得た上で、再履修をしてください。

但し、人数によっては受講生の調整を行うことがあります。

(7) その他（選択・自由科目）の履修について

英語では各学期に個別なテーマを掲げた授業が開設されます。

初修外国語では当該外国語の比較的高度な運用能力を養うことを目的とします。

必修科目としては履修できません。開設科目例は次のとおりです。

なお、「応用〇〇語会話」等、応用科目に関しては開講年次に注意してください。

① 「英語」選択・自由科目（1・2～4年次履修・学期完結型・1.0単位）

英語による Presentation や Writing, 学術英語読解や外部検定試験に対応した科目を開講します。

詳細は『開設授業科目一覧』をご覧ください。

② 「ドイツ語」選択・自由科目（1・2～4年次履修・学期完結型・1.0単位）

・「基礎ドイツ語 B II」（1年次から履修可・秋学期）

・「ドイツ語圏の言語と文化 B」（2年次から履修可・秋学期）

・「応用ドイツ語講読」,「応用ドイツ語作文」,「応用ドイツ語会話」

- ③ 「フランス語」選択自由科目（1・2～4年次履修・学期完結型・1.0単位）
- ・「基礎フランス語BⅡ」（1年次から履修可・秋学期）
 - ・「フランス語圏の言語と文化B」（2年次から履修可・秋学期）
 - ・「応用フランス語講読」, 「応用フランス語作文」, 「応用フランス語会話」
- ④ 「スペイン語」選択自由科目（1・2～4年次履修・学期完結型・1.0単位）
- ・「基礎スペイン語BⅡ」（1年次から履修可・秋学期）
 - ・「スペイン語圏の言語と文化B」（2年次から履修可・秋学期）
 - ・「応用スペイン語講読」, 「応用スペイン語作文」, 「応用スペイン語会話」
- ⑤ 「ロシア語」選択自由科目（1・2～4年次履修・学期完結型・1.0単位）
- ・「基礎ロシア語BⅡ」（1年次から履修可・秋学期）
 - ・「ロシア語圏の言語と文化B」（2年次から履修可・秋学期）
 - ・「応用ロシア語講読」, 「応用ロシア語作文」, 「応用ロシア語会話」
- ⑥ 「中国語」選択自由科目（1・2～4年次履修・学期完結型・1.0単位）
- ・「基礎中国語BⅡ」（1年次から履修可・秋学期）
 - ・「中国語圏の言語と文化B」（2年次から履修可・秋学期）
 - ・「応用中国語講読」, 「応用中国語作文」, 「応用中国語会話」
- ⑦ 「朝鮮語」選択自由科目（1・2～4年次履修・学期完結型・1.0単位）
- ・「基礎朝鮮語BⅡ」（1年次から履修可・秋学期）
 - ・「朝鮮語圏の言語と文化B」（2年次から履修可・秋学期）
 - ・「応用朝鮮語講読」, 「応用朝鮮語会話」

※ 選択・自由科目の履修上の注意事項について

初修外国語の選択・自由科目において、「基礎〇〇語BⅡ」を履修するには、当該言語の「基礎〇〇語BⅠ」を履修していること、「〇〇語圏の言語と文化B」を履修するには、当該言語の「〇〇語圏の言語と文化A」を履修していることが必要です。

また、応用に関する選択・自由科目を履修するには、当該言語に関する基礎的な科目のすべてが履修済みでなければなりません。例えば、原則として、基礎的な科目のうち「基礎ドイツ語AⅠ」と「基礎ドイツ語AⅡ」の2科目しか履修していない者が、「応用ドイツ語会話」を履修することはできません。

(8) 日本語の履修について

日本語科目は、外国人留学生及び帰国生徒等（外国において相当の期間、中等教育を受けた学生）を受講対象として開設しており、日本語レベルは中級後半レベル以上になります。

各科目は、春学期及び秋学期ともに開設し、春学期の科目は「A」、秋学期の科目は「B」と区分しています。

① 開設科目

科目名		単位数	授業回数	開設モジュール
春学期	秋学期			
日本語聴解ⅠA	日本語聴解ⅡB	1.0単位	15回+試験	ABCモジュール
日本語作文ⅠA	日本語作文ⅡB			
日本語読解ⅠA	日本語読解ⅡB			
日本語演習ⅠA	日本語演習ⅡB			

② 履修上の注意事項

- ・上記科目の中から必要単位数を履修してください。
- ・履修可能な学生は、外国人留学生及び帰国生徒等（外国において相当の期間、中等教育を受けた学生）です。
- ・帰国生徒で受講を希望する者は、受講前にグローバルコミュニケーション教育センター（日本語教育部門）の日本語担当教員の履修指導及びレベル判定テストにより許可を受けてください。
- ・卒業要件として使用できるか否かについては、必ず所属学群・学類の履修細則を確認し、所属学群・学類での履修指導を受けてください。

グローバルコミュニケーション教育センターホームページ：

<http://www.cegloc.tsukuba.ac.jp/> > 日本語教育部門

③ Japan-Expert（学士）プログラム生の日本語の履修について

Japan-Expert（学士）プログラムに所属する学生は、グローバルコミュニケーション教育センターが開設する日本語科目15単位を履修する必要があります。各科目は、秋学期に開設しています。

科目名	単位数	開設モジュール
Japan-Expert 日本語話す	2.0単位	秋学期 ABCモジュール
Japan-Expert 日本語聞く	2.0単位	
Japan-Expert 日本語読む	3.0単位	
Japan-Expert 日本語書く	2.0単位	
Japan-Expert 日本語文法	2.0単位	
Japan-Expert 日本語漢字	2.0単位	
Japan-Expert 日本語総合日本語	1.0単位	
Japan-Expert 専門日本語 （各コース）	1.0単位	秋学期 ABC モジュール または秋学期 BC モジュール
	計15単位	

「Japan-Expert 専門日本語」以外の日本語科目については、入学後にレベル判定テストを行い、日本語能力に応じてクラス分けを行います。

「Japan-Expert 専門日本語」はコース別に開設していますので、自身の所属するコースの科目を履修してください。なお、当該科目は Japan-Expert（学士）プログラム生のみ履修可能です。

4. 情報

(1) 「情報」の構成と修得単位

「情報」4単位は、必修科目として情報リテラシー（講義）1単位、情報リテラシー（演習）1単位及びデータサイエンス2単位から構成されます。

□「情報」の構成及び修得単位数等

区 分	授業科目名	単位数	修得単位数	科目番号	標準履修年次			
					1	2	3	4
情報	情報リテラシー（講義）	1	4単位	6101101～	○			
	情報リテラシー（演習）	1		6401102～	○			
	データサイエンス	2		6501102～	○			

(2) 履修上の注意事項

- ① 「情報」は1年次に履修することを原則とします。
- ② それぞれ履修すべき学群・学類，班又はクラスが指定されます。指定科目以外の履修は原則として認められません。履修すべき班については，年度当初に掲示等（所属により異なります）で連絡します。
- ③ 情報リテラシー（演習）1単位及びデータサイエンス2単位は入室管理装置が設置された実習室等で行いますので，必ず学生証を持参してください。
- ④ 英語プログラム（4ページ参照）での入学者を対象に英語で実施する科目を開設します。英語プログラム以外の学生は，原則この科目を履修できません。

5. 国語

(1) 履修の目的

国際化社会における日本人の母語、「日本語」についての新たな自覚と認識を持たせるとともに日本語による表現能力を高めることを目的とします。また、レポート等を作成するための基本的な文章表現の理論と実際についても併せて指導します。

(2) 講義の内容

国語の内容を「国語Ⅰ」及び「国語Ⅱ」に分け、「国語Ⅰ」では基礎的内容を、「国語Ⅱ」では「国語Ⅰ」の学修にもとづく応用・発展を内容として取り上げます。授業内容等の詳細は、シラバスを参照してください。

(3) 履修の方法

- ① 「国語Ⅰ」及び「国語Ⅱ」の各科目は、必修科目とする学群・学類に対応して開設しています(表1)。
受講は、対象学群・学類に対応する授業科目の受講を原則とします。対象学群・学類以外の授業科目を受講する場合は、あらかじめ担当教員の許可を得なければなりません。
また、特に学群・学類を指定しない全学群対象の授業科目も開設しています。
- ② 国語1単位の修得を必要とする学生は「国語Ⅰ」を、国語2単位の修得を必要とする学生は「国語Ⅰ」と「国語Ⅱ」を、それぞれ選択して履修しなければなりません。

(表1) 国語の履修年次と修得単位数

学 類	履修年次	修得単位数
人 文 学 類	1年次	必修2単位
比 較 文 化 学 類	1年次	必修2単位
日本語・日本文化学類	1年次	必修2単位
生 物 資 源 学 類	1年次	必修1単位
医 学 類	1年次	必修1単位
看 護 学 類	1年次	必修1単位
体 育 専 門 学 群	1年次	必修2単位
その他の学群・学類	1年次	選択又は自由

注 修得単位数については、各学群・学類の履修細則を参照すること。

6. 芸術

(1) 開設趣旨

美を感じ、美を表現し、美を共有することは、すべての人が本来備えている素質であるが、受けた訓練や経験の違いによって、それぞれの水準や質が著しく異なることも知られている。芸術分野は国際的には大学におけるリベラルアーツ教育の重要な要素とみなされてきたが、わが国の高等教育においては必ずしもその重要性が認識されてこなかった。芸術によって涵養されるバランス感覚や自己表現の能力は、これからの調和的発展を目指す持続可能な社会にとっては必要不可欠なものになりつつある。筑波大学は創設以来わが国を代表する芸術分野の部局を持ち、優れた専門家を輩出してきた。その伝統をさらに発展させて、筑波大学の学生が芸術全般にわたってすぐれた文化的営みを理解し鑑賞する力と、これらの営みに積極的に参加しようとする態度をはぐくむために、芸術科目として開講する。

(2) 授業の内容

鑑賞系科目、制作系科目および問題解決型科目が開講されます。講義、演習、実習などからなります。

美術史領域
芸術支援領域
洋画領域
日本画領域
彫塑領域
書領域
版画領域
総合造形領域
工芸領域
構成領域
ビジュアルデザイン領域
情報・プロダクトデザイン領域
環境デザイン領域
建築デザイン領域

(3) 履修上の注意事項

- ① 演習、実習科目などについては、教育の充実を図るために受講者数の上限が定められています。履修申請者数が受入上限数を超過した場合には受講者の調整が行われますので注意してください。
- ② 実習科目などについては、履修に際して保険の加入を義務付けることがあります。